

プラ木レン
遮音プラ木レン
施工要領書



目次

1. はじめに	……2
2. プラ木レン仕様	
2-1. 構成	……2
2-2. 参考割付図	……2
2-3. 規格	
2-3-1. 構成部材	……3
2-3-2. 床高調整範囲	……4
3. 遮音プラ木レン仕様	
3-1. 構成	……5
3-2. 参考割付図	……5
3-4. 規格	
3-4-1. 構成部材	……6～7
3-4-2. 床高調整範囲	……8
4. 床パネル規格	……9
5. 別売部材・付属部材・専用工具	……10
6. 施工方法	
6-1. 施工を始める前の確認・点検事項	……11
6-2. 施工手順	……12～16
6-3. 仕上げ材の施工に関する注意点	……17
6-4. 捨張合板に関する注意点	
6-4-1. 仕様	……17
6-4-2. 施工要領	……18～19

1. はじめに

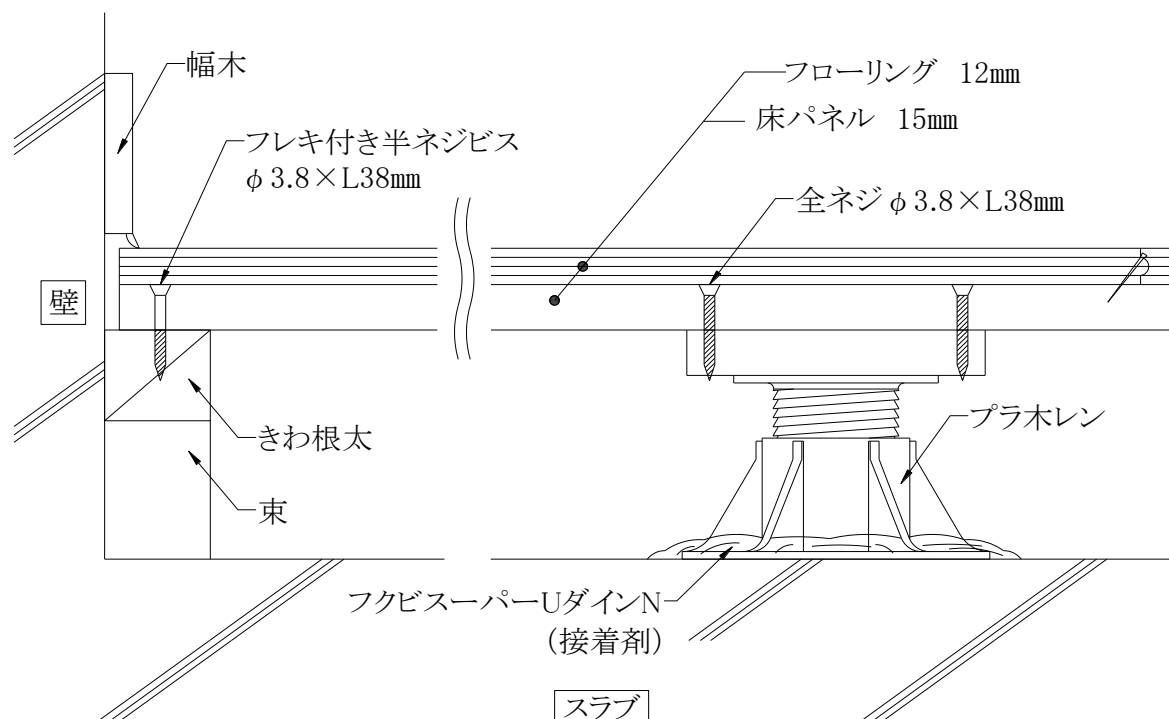
本施工要領書は「プラ木レン」「遮音プラ木レン」の施工要領を記載しています。

本書をよく読み、正しくお取扱いただきますようお願いいたします。

2. プラ木レン仕様

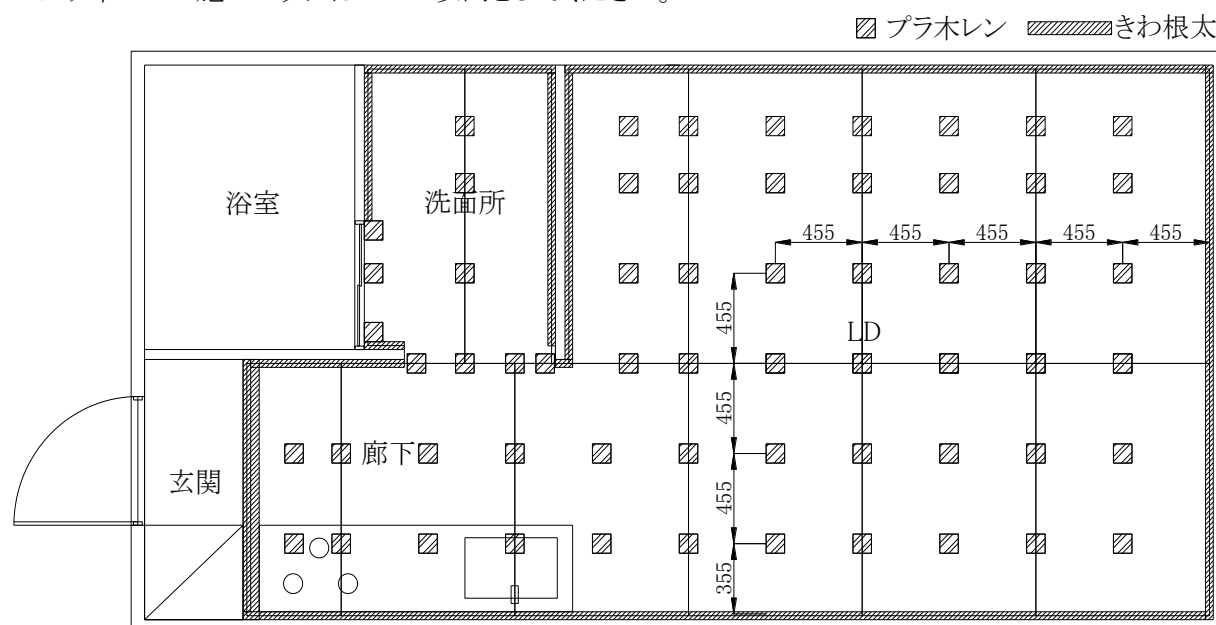
2-1. 構成

プラ木レンをスラブに接着剤で固定し、プラ木レンの台板に床パネルをビスで固定する工法です。



2-2. 参考割付図

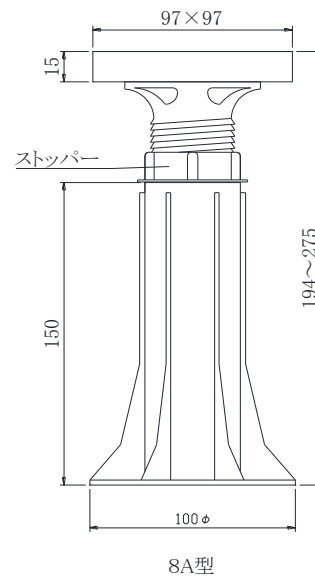
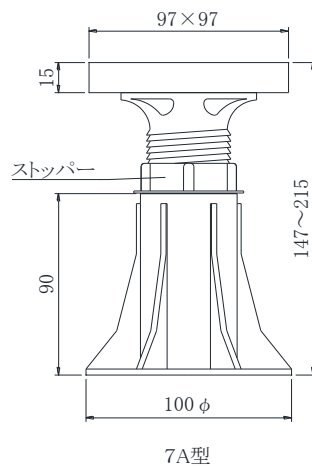
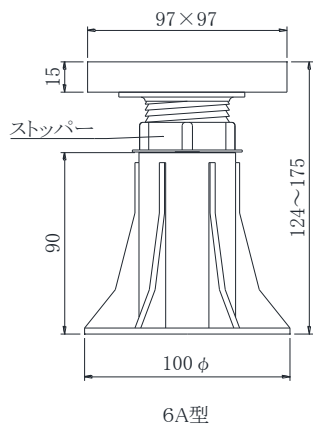
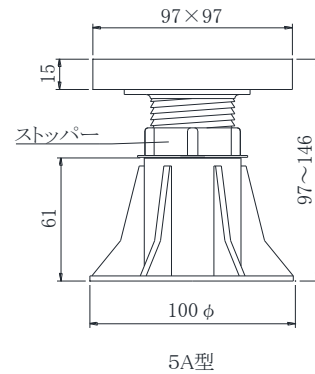
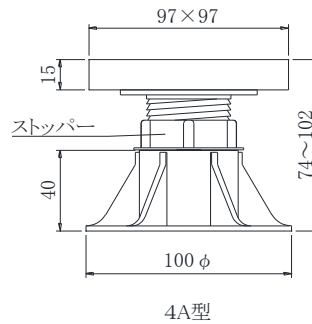
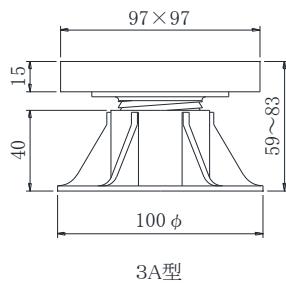
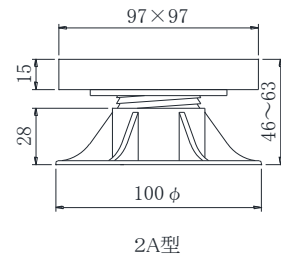
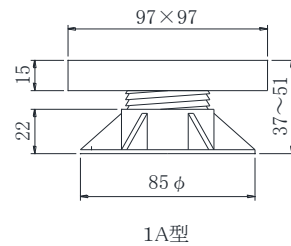
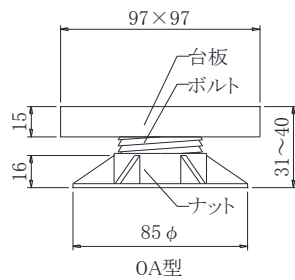
プラ木レンの施工ピッチは455mm以内としてください。



2-3. 規格

2-3-1. 構成部材

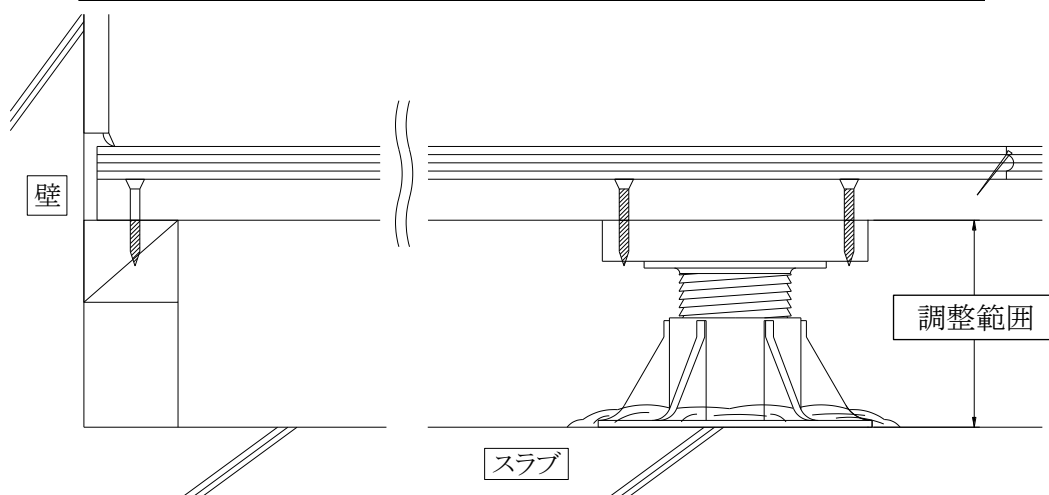
部材	材質	備考
台板	JAS1類合板	縦97×横97×厚15〔mm〕の1種類
ボルト	PP	長さ7種類
ナット	PP	長さ7種類
ストッパー	PP	4A型～8A型に付属。0A型～3A型はなし



2-3-2. 床高調整範囲

- ・調整範囲…スラブから台板天端までの床高さ〔下図参照〕
- ・中央高さ…調整範囲の中央値

品名	調整範囲〔mm〕	中央高さ〔mm〕
プラ木レン0A型	31 ～ 40	35.5
プラ木レン1A型	37 ～ 51	44
プラ木レン2A型	46 ～ 63	54.5
プラ木レン3A型	59 ～ 83	71
プラ木レン4A型	74 ～ 102	88
プラ木レン5A型	97 ～ 146	121.5
プラ木レン6A型	124 ～ 175	149.5
プラ木レン7A型	147 ～ 215	181
プラ木レン8A型	194 ～ 275	234.5

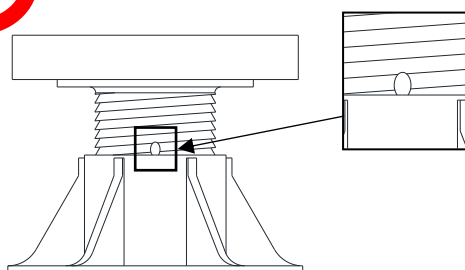


※注意

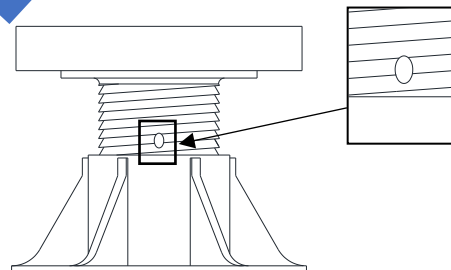
プラ木レンは、ボルトに付いているくぼみが完全に見える状態だと、調整範囲の最大高さを超えています。適切な高さのプラ木レンに取り換えてください。
最大高さを超えているプラ木レンは、ボルトがナットから外れたり、強度低下の原因となるので、使用しないでください。



OK: 調整範囲内



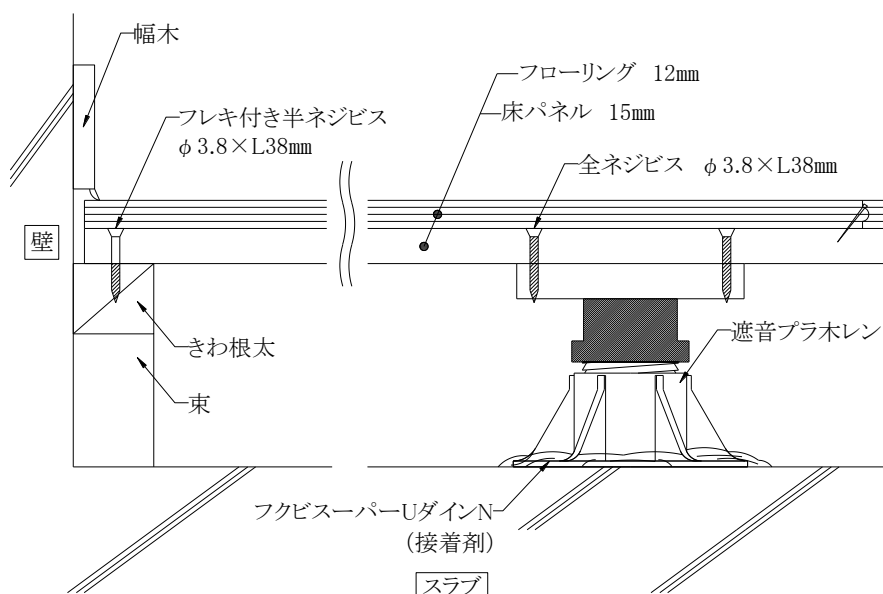
NG: 調整範囲外



3. 遮音プラ木レン仕様

3-1. 構成

遮音プラ木レンをスラブに接着剤で固定し、遮音プラ木レンの台板に床パネルをビスで固定する工法です。



3-2. 参考割付図

遮音プラ木レンの施工ピッチは455mm以内としてください。パーティクルボード[長さ1,820×幅600(mm)]に施工する場合のみ、長辺方向は455mmピッチ、短辺方向は600mmピッチとしてください。

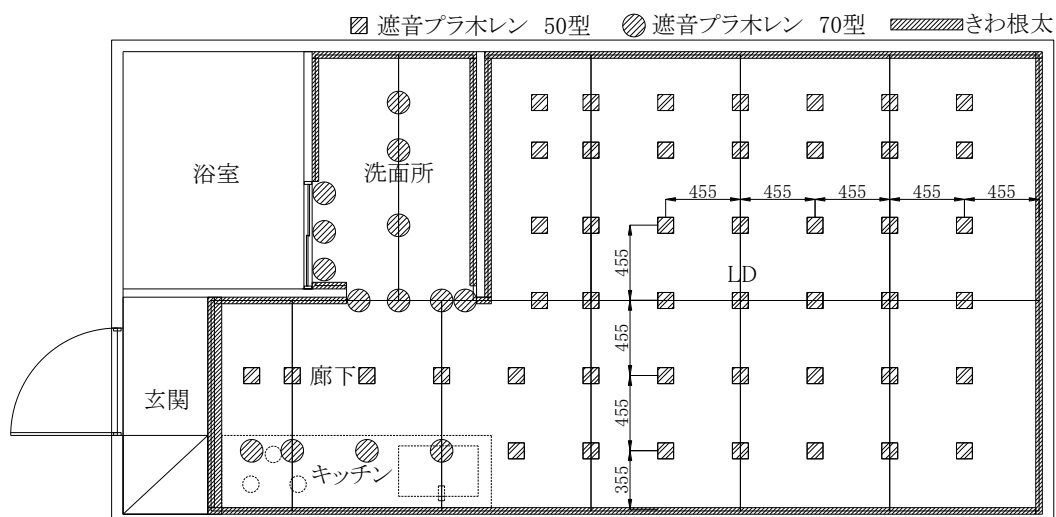
[50型と70型の使い分けについて]

50型…一般部分

・50型は遮音性を考慮して、ゴム座が柔らかくなっているため、重量物が載らない一般部分に施工してください。

70型…開口部や壁回り

・70型は50型に比べてゴム硬度が固いため、開口部や重量物が載る箇所に施工してください。

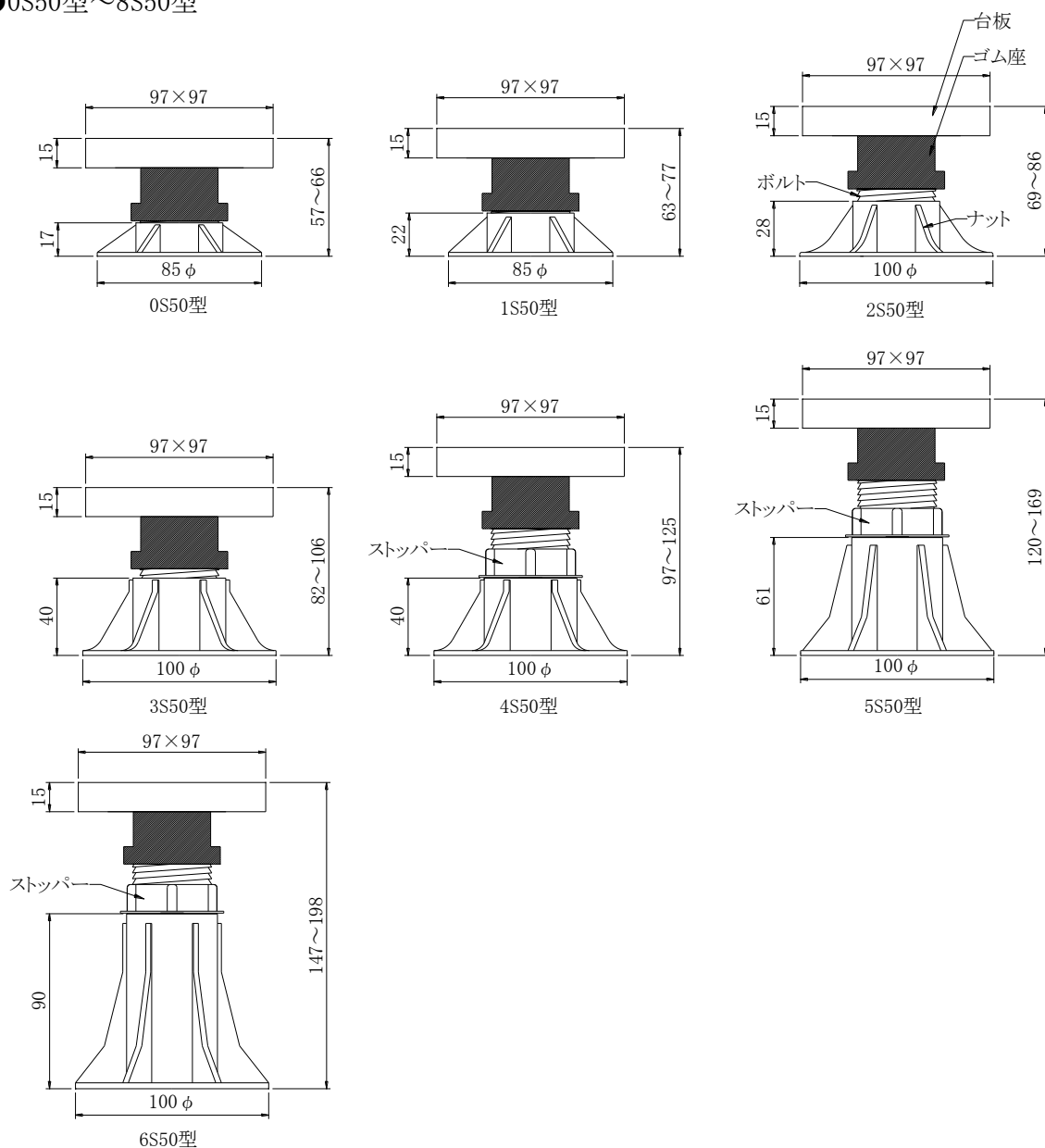


3-3. 規格

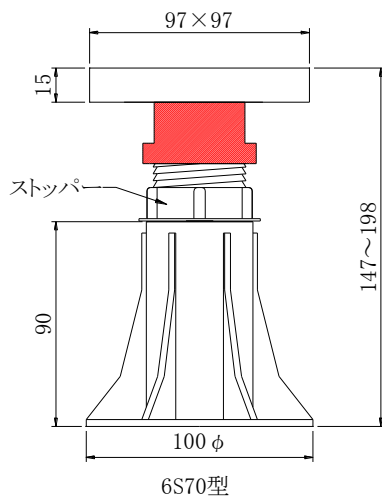
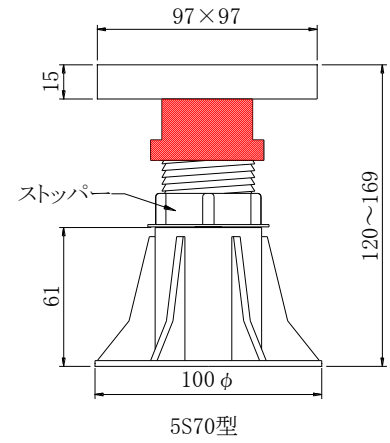
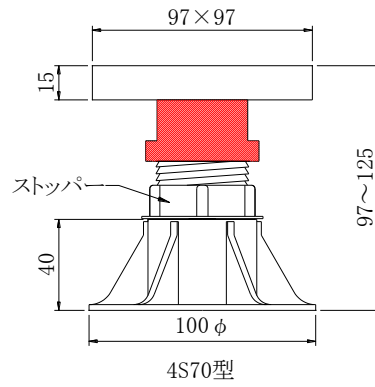
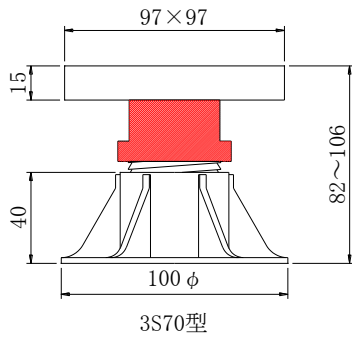
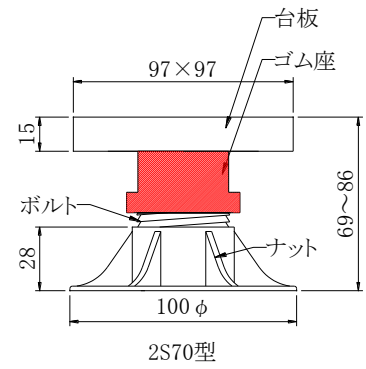
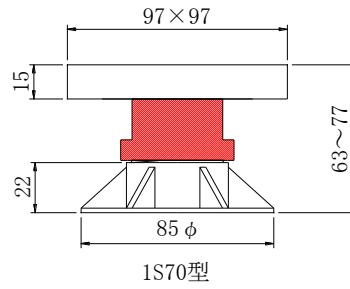
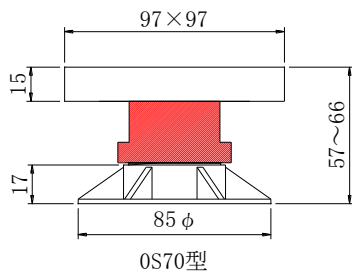
3-3-1. 構成部材

部材	材質	備考
台板	JAS1類合板	縦97×横97×厚15〔mm〕の1種類
ゴム座	スチレンブタジエンゴム (SBR)	各50型:ゴム硬度50度 各70型:ゴム硬度70度
ボルト	PP	長さ6種類
ナット	PP	長さ6種類
ストッパー	PP	4S50型～6S50型、4S70型～6S70型に付属。 0S50型～3S50型、0S70型～3S70型はなし

●0S50型～8S50型



●0S70型～8S70型

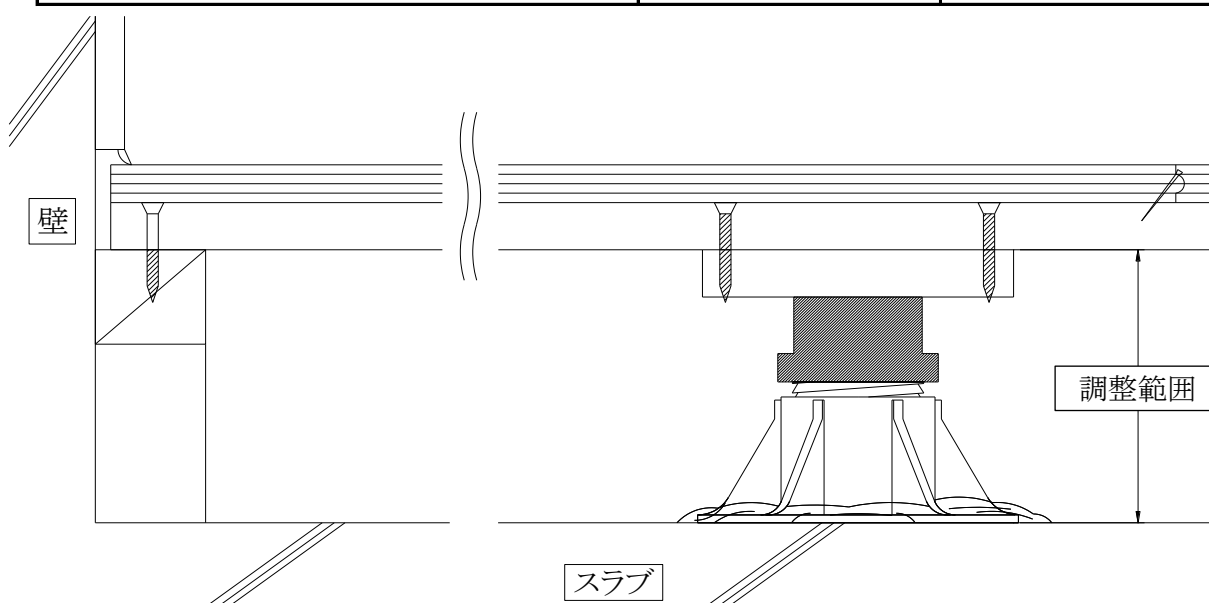


3-3-2. 床高調整範囲

・調整範囲…スラブから台板天端までの床高さ〔下図参照〕

・中央高さ…調整範囲の中央値

品名	調整範囲〔mm〕	中央高さ〔mm〕
遮音プラ木レン0S50型、0S70型	57～66	61.5
遮音プラ木レン1S50型、1S70型	63～77	70
遮音プラ木レン2S50型、2S70型	69～86	77.5
遮音プラ木レン3S50型、3S70型	82～106	94
遮音プラ木レン4S50型、4S70型	97～125	111
遮音プラ木レン5S50型、5S70型	120～169	144.5
遮音プラ木レン6S50型、6S70型	147～198	172.5

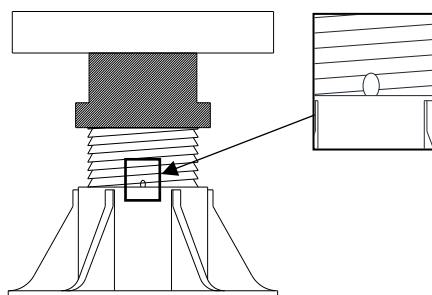


※注意

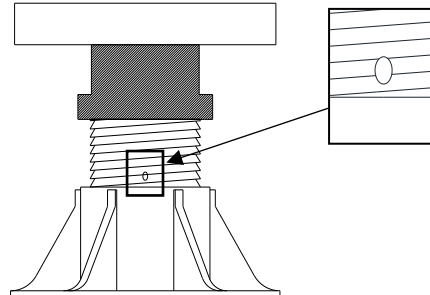
遮音プラ木レンは、ボルトに付いているくぼみが完全に見える状態だと、調整範囲の最大高さを超えています。適切な高さの遮音プラ木レンに取り換えてください。
最大高さを超えている遮音プラ木レンは、ボルトがナットから外れたり、強度低下の原因となるので、使用しないでください。



OK: 調整範囲内



NG: 調整範囲外



4. 床パネル規格

●プラ木レン

床パネル	規格	
	長さ×幅	厚み
合板	6尺×3尺	9mm+12mm 12mm+12mm 15mm 24mm
	6尺×1.5尺	15mm、24mm
パーティクルボード	6尺×3尺	20mm、25mm
	6尺×2尺	20mm、25mm

※プラ木レンの設置間隔は455mmピッチ以内です。

※注意

上記に記載する規格以外は使用しないでください。規格以外の床パネルを使用すると、強度低下や床鳴りの原因となります。

・6尺×3尺×9mm+12mm、6尺×3尺×12mm+12mmを施工する場合には、床パネル1枚目と2枚目は直交するように施工してください。このとき、床パネル1枚目に対する床パネル2枚目のかかり寸法は150mm以上としてください。

・6尺×3尺×9mm+12mmを施工する場合には、合板12mmを先に施工し、合板9mmを上に乗せてください。

●遮音プラ木レン

床パネル	規格	
	長さ×幅	厚み
合板	6尺×3尺	12mm+12mm 15mm
	6尺×1.5尺	15mm
パーティクルボード	6尺×3尺	20mm、25mm
	6尺×2尺	20mm、25mm

※注意

・上記に記載する規格以外は使用しないでください。規格以外の床パネルを使用すると、強度低下や床鳴りの原因となります。

・6尺×3尺×12mm+12mmを施工する場合には、床パネル1枚目と2枚目は直交するように施工してください。このとき、床パネル1枚目に対する床パネル2枚目のかかり寸法は150mm以上としてください。

5. 別売部材・付属部材・専用工具

別売部材:「フクビスーパーUダイN」(接着剤)

規格:1.5kg・5kgの2種類

材質:一液型ウレタン樹脂系

備考:プラ木レン1個あたりの塗布量は約60g

※注意
使用する際の温度は5℃以上としてください。
5℃未満の環境で使用する则接着剤の硬化
速度が遅くなりますので、十分養生して硬化
したか確認を行ってください。

付属部材:ビス(プラ木レン0A型～8A型全てに同梱)

規格:全ネジφ3.8×36mm・全ネジφ3.8×38mmの2種類

材質:スチール

備考:プラ木レン0A型～1A型に全ネジφ3.8×36mmを同梱、2A型～8A型に全ネジφ3.8×38mmを同梱。

専用工具:「STOPPER締め治具」(4A型～8A型、4S50・70型～6S50・70型に同梱)

プラ木レン4A型～8A型、遮音プラ木レン4S50型・70型～6S50型・70型のSTOPPERを締め付ける際に、使用してください。

プラ木レン0A型～3A型、遮音プラ木レンOS50型・70型～3S50型・70型にはSTOPPERがないため、使用しません。



STOPPER締め治具

※注意
STOPPERは、必ずSTOPPER締め治具を使用して、しっかりと締め付けてください。
手でSTOPPERを締め付けると、STOPPERが外れる可能性があります。

6. 施工方法

6-1. 施工を始める前の確認・点検事項

●床スラブのレベル及び不陸の確認

- ・コンクリートスラブのレベルを確認する。
- ・きわ根太の高さと掃き出しサッシ、木製建具、家具式クローゼット、配管等との取り合いを確認する。
- ・プラ木レン(遮音プラ木レン)を設置できないような不陸、傾き等をあらかじめ確認する。不陸、傾き等によって施工できない状態であれば、元請業者に報告し、補修を行う。

●使用材料の保管場所

- ・各材料は水のかからない、水平で直射日光が当たらない場所に保管する。
- ・床パネルや捨張合板は湿気の少ない場所に直置きする。立て掛けは厳禁とする。

●床下地面の清掃

- ・木くず、ゴミ等を除去する。
- ・スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かす。

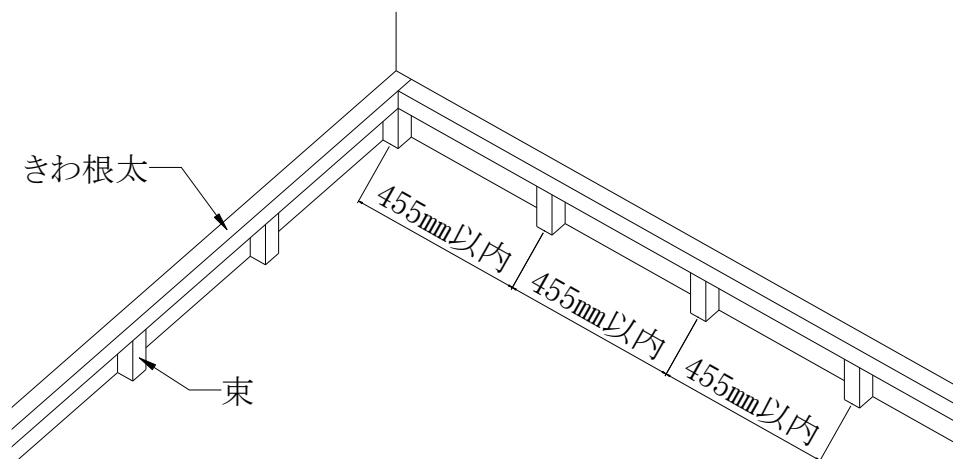
6-2. 施工手順

① きわ根太の施工

きわ根太を指定されているレベルに合わせて壁面に取り付け、束をきわ根太の下に455mmピッチ以内で設置する。

※注意

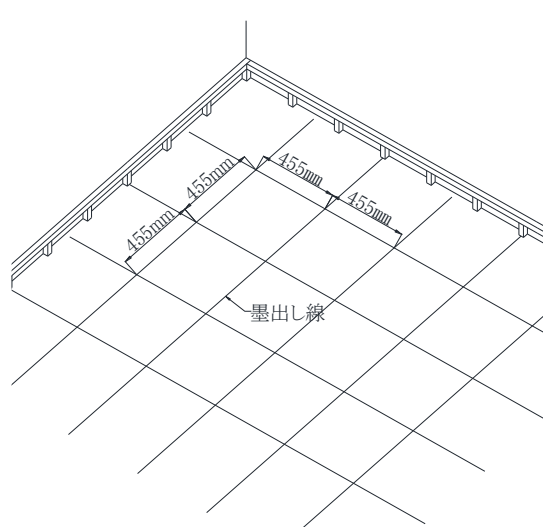
きわ根太の取付け箇所間違いがないか、指定されているレベルで施工されているのか確認してください。



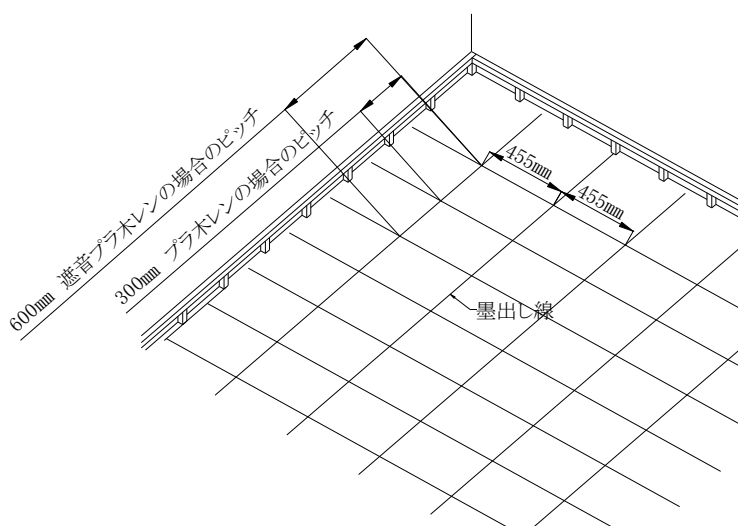
② 墨出し

事前に用意された割付図に従って、合板の場合は455mmピッチ[プラ木レン(遮音プラ木レン)の基本施工ピッチ]でコンクリートスラブに墨出しする。

また、パーティクルボード[長さ1,820×幅600(mm)]の場合は、遮音プラ木レンは長辺方向は455mmピッチ、短辺方向は600mmピッチ、プラ木レンは長辺方向は455mmピッチ、短辺方向は300mmピッチでコンクリートスラブに墨出しする。



合板の場合



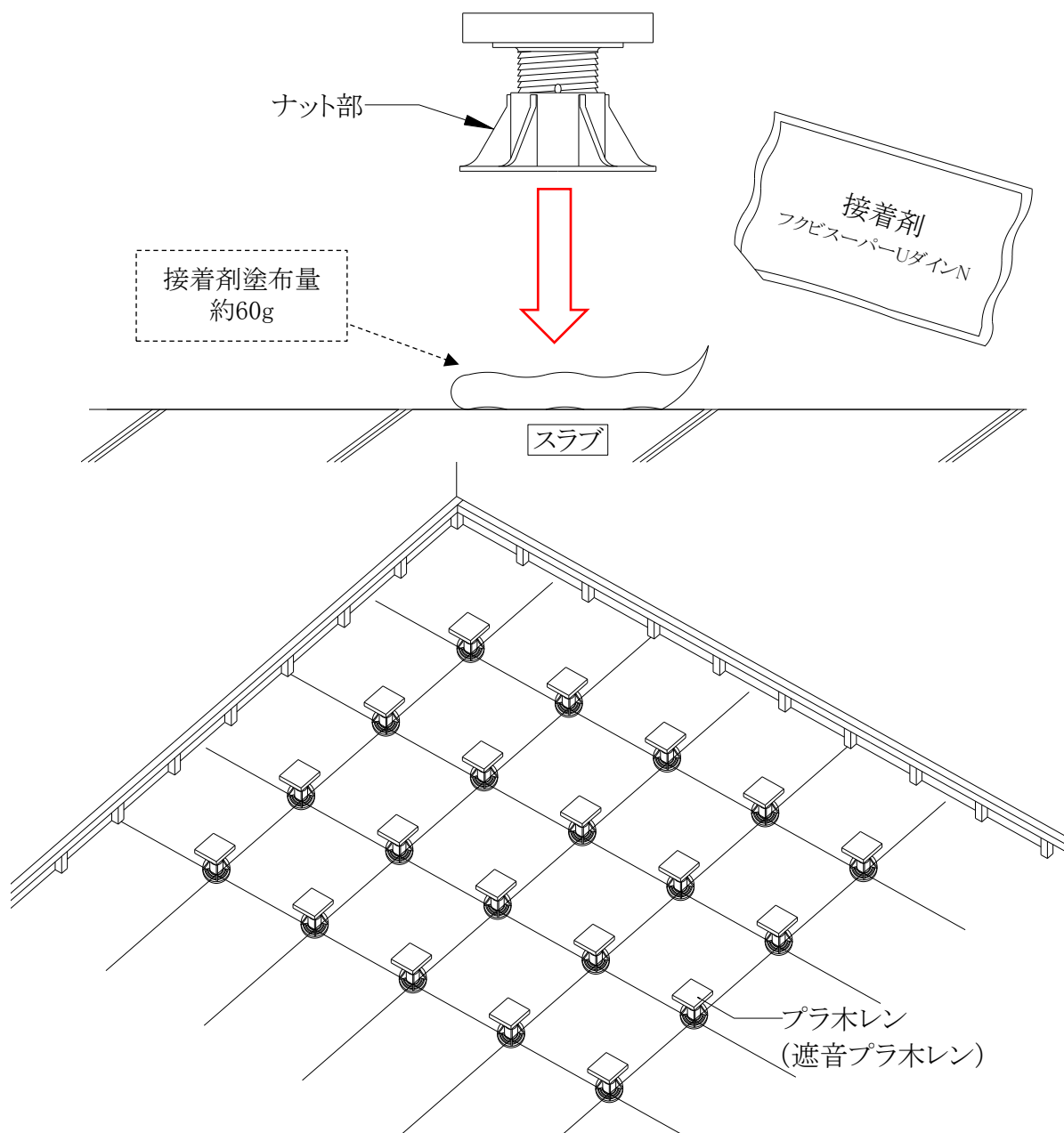
パーティクルボード[長さ1,820×幅600(mm)]の場合

③ プラ木レン(遮音プラ木レン)の接着 ※以降の図は合板を床パネルとする場合を図示しています。

墨出し線の交点に「フクビスーパーUダインN」を約60g塗布し、プラ木レン(遮音プラ木レン)のナット部底面を接着する。

※注意

スラブ面に木くずやホコリ、ゴミなどがあると、接着不良となります。スラブ面を清掃してから接着剤を塗布してください。



④ 養生

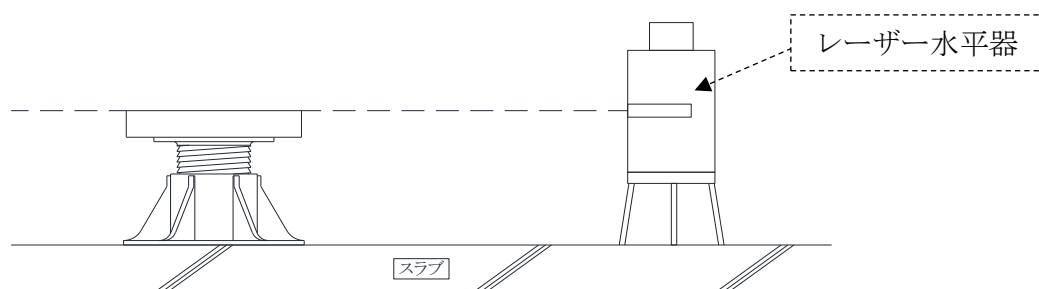
温度が5℃以上の環境で、約24時間養生する。

※注意

- ・養生中にプラ木レン(遮音プラ木レン)への衝撃を避けてください。接着層がはく離します。
- ・温度が5℃未満の環境で養生すると接着剤の硬化速度が遅くなりますので、約24時間養生し

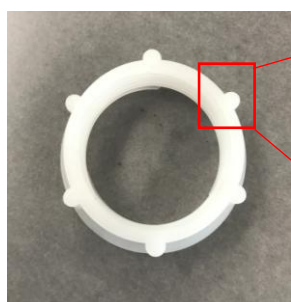
⑤ プラ木レン(遮音プラ木レン)のレベル調整

レーザー水平器を設置し、レーザーを基準となる高さに合わせ、プラ木レン(遮音プラ木レン)の台板部分を回してレベルを調整する。



ストッパーの締め付け(プラ木レン4A型～8A型、遮音プラ木レン4S50型・70型～6S50型・70型のみ)

レベル調整後、ストッパーの突起部分に、ストッパー締め治具の先端を引っ掛けながら回し、ストッパーをしっかりと締め付けてください。(写真参照)



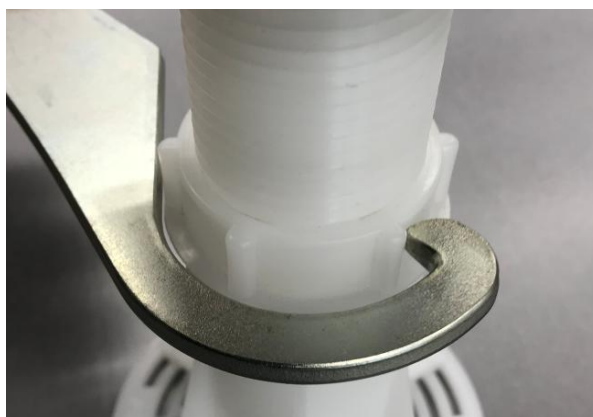
突起部分

ストッパー



先端

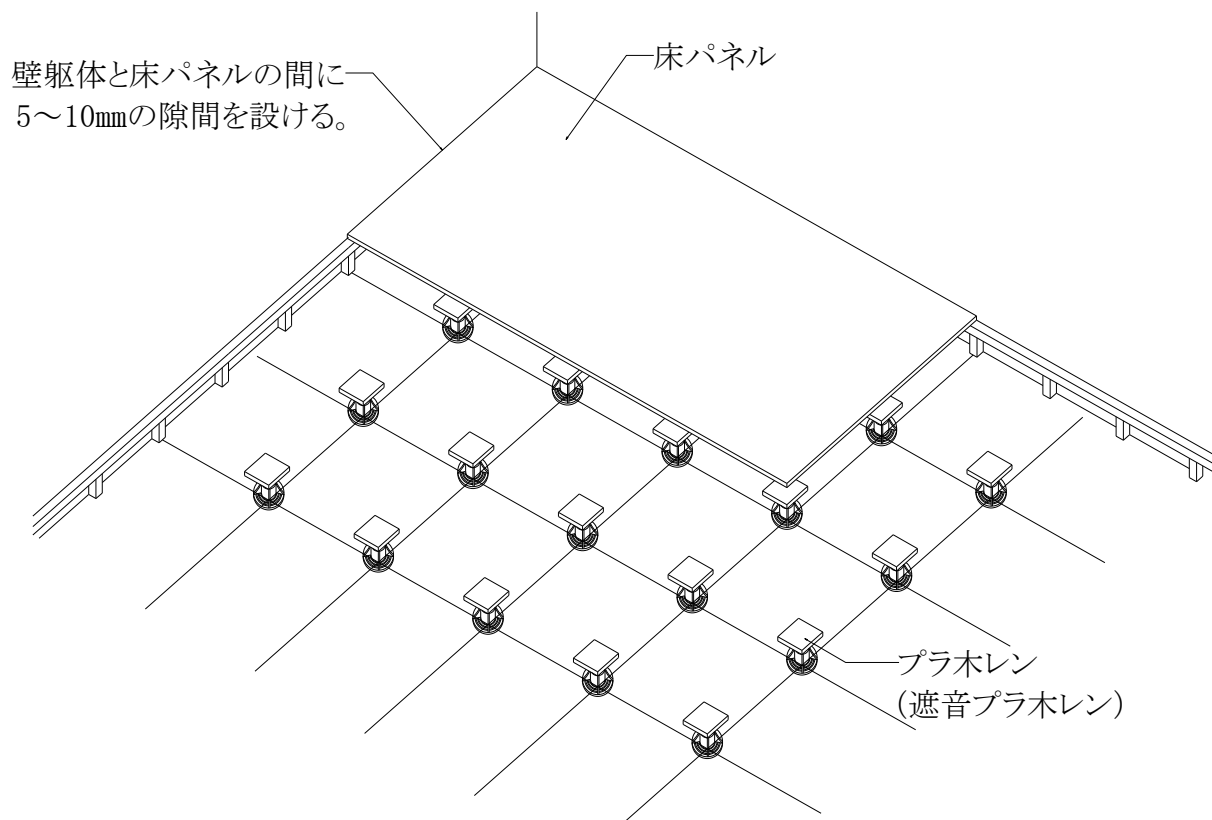
ストッパー締め治具



ストッパーに治具の先端を引っ掛けた状態

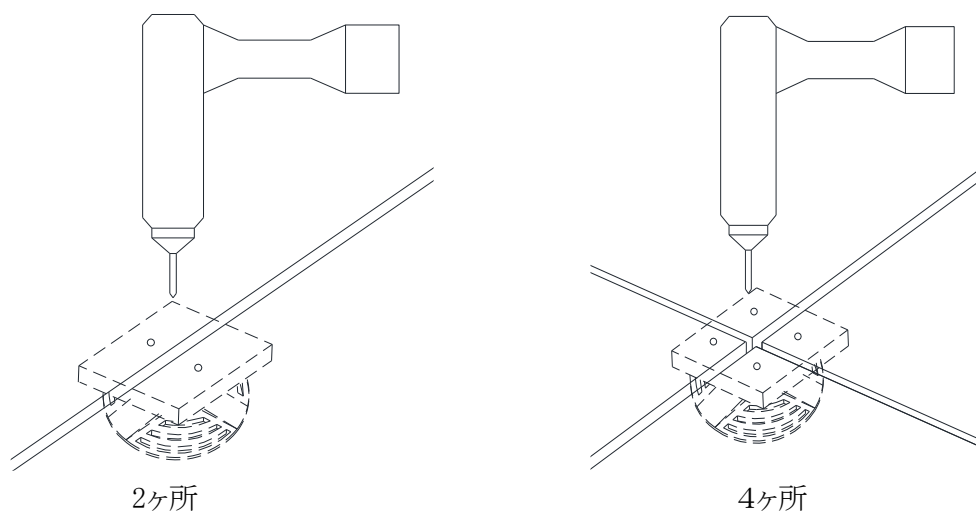
⑥ 1枚目の床パネルの設置

床パネルをプラ木レン(遮音プラ木レン)の台板ときわ根太の上に設置する。この時、壁躯体と床パネルの間に5～10mmの隙間を設ける。



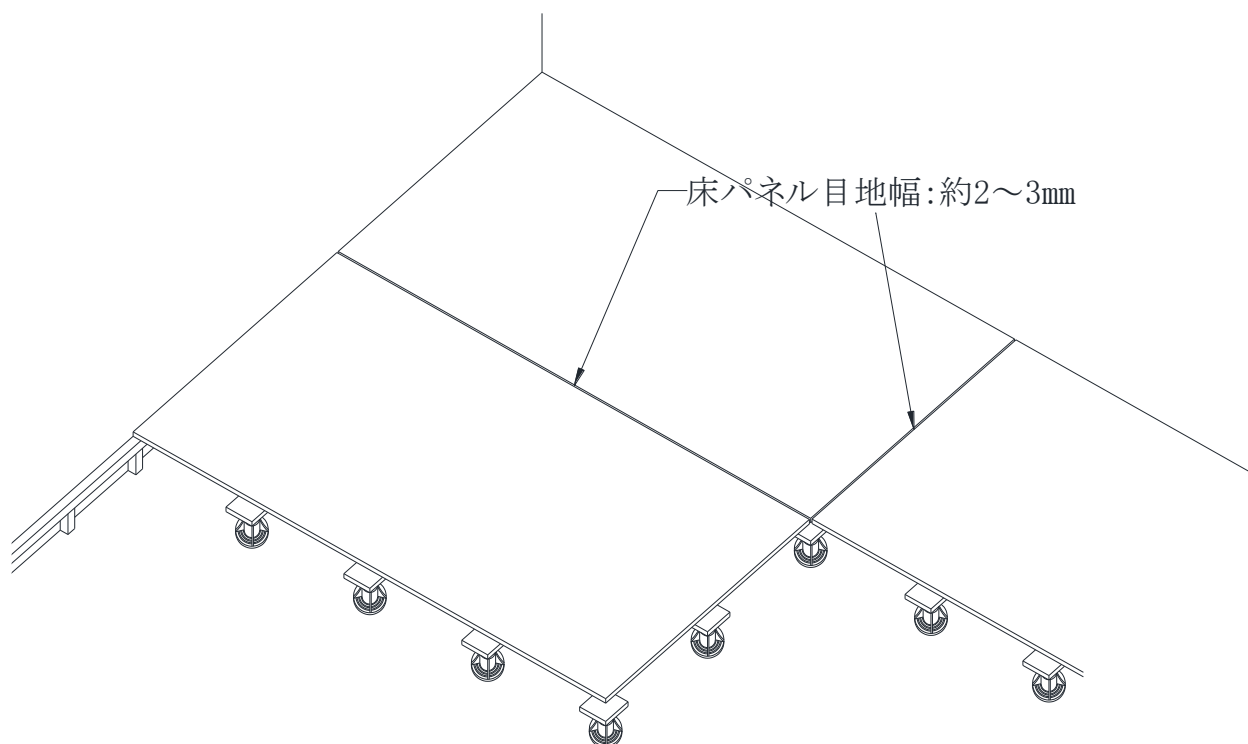
⑦ 床パネルの固定

床パネルは、ビスで下図のように固定する。



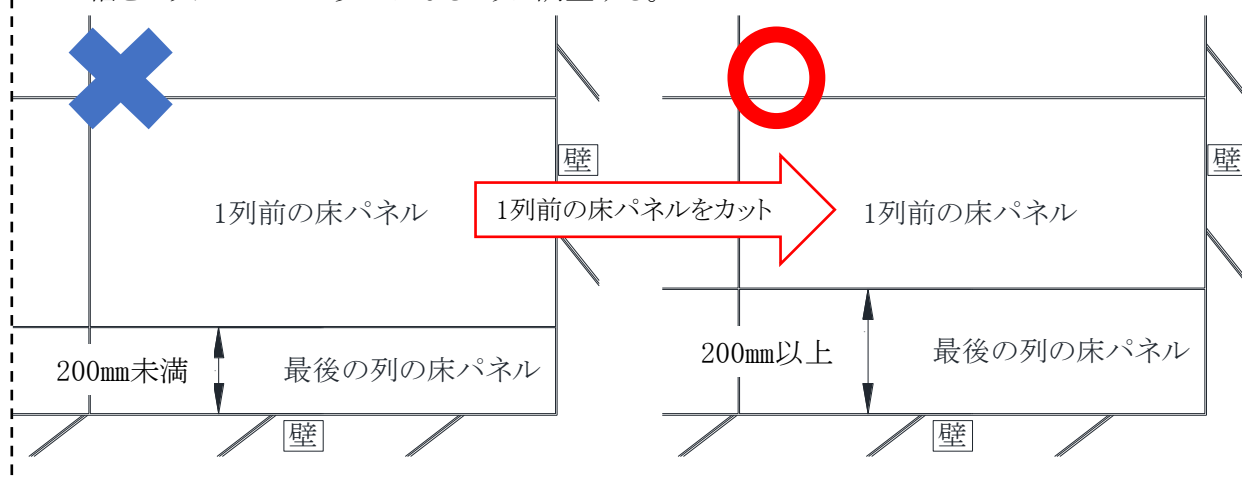
⑧ 2枚目以降の床パネルの設置・固定

1枚目の床パネルと同様に、割付図に従って床パネルを設置・固定する。床パネル間の目地幅は約2～3mmあける。



※注意

最後の列に設置する床パネルは、幅を200mm以上とする。200mm未満になる場合は、1列前の床パネルの幅をカットして200mm以上になるように調整する。



⑨ 最終確認

全ての床パネルを施工後、床パネルの上を歩いて床鳴りが発生しないかを確認する。床鳴りする場合は、フローリングの施工前に補修を行う。

6-3. 仕上げ材の施工に関する注意点

・原則、仕上げ材メーカーの施工要領に従って施工してください。

・フローリングの目地と床パネルの目地が重ならないように施工してください。このとき、床パネルに対するフローリングのかかり寸法は150mm以上としてください。

・フローリングの張り方向は、床パネルと直交するように施工してください。

・フローリングの施工に接着剤を併用する場合は、仕上げ材メーカーの指定接着剤か弾性ウレタン系接着剤を使用してください。

・フローリングの張り始めや張り終いの固定には、フィニッシュネイルや隠し釘は使用しないでください。仕上げ材メーカーの指定するステーブルやスクリュー釘等を使用してください。

6-4. 捨張合板に関する注意点

6-4-1. 仕様

・仕上げ材の種類によって捨張合板を施工する必要があります。(下表参照)

仕上げ材			捨張合板厚み	
種類	厚み	巾	プラ木レン	遮音プラ木レン
複合フローリング	12mm以上	140mm以上	不要	不要
	12mm以上	140mm未満	5.5mm以上	9mm以上
	12mm未満	-		
無垢フローリング	-	-	12mm ※	12mm ※
直張りフローリング	-	-	5.5mm以上	9mm以上
ビニル床シート	-	-		
クッションフロア	-	-		
ビニル床タイル	-	-		
タイルカーペット	-	-		
カーペット	-	-		
畳	-	-	不要	不要

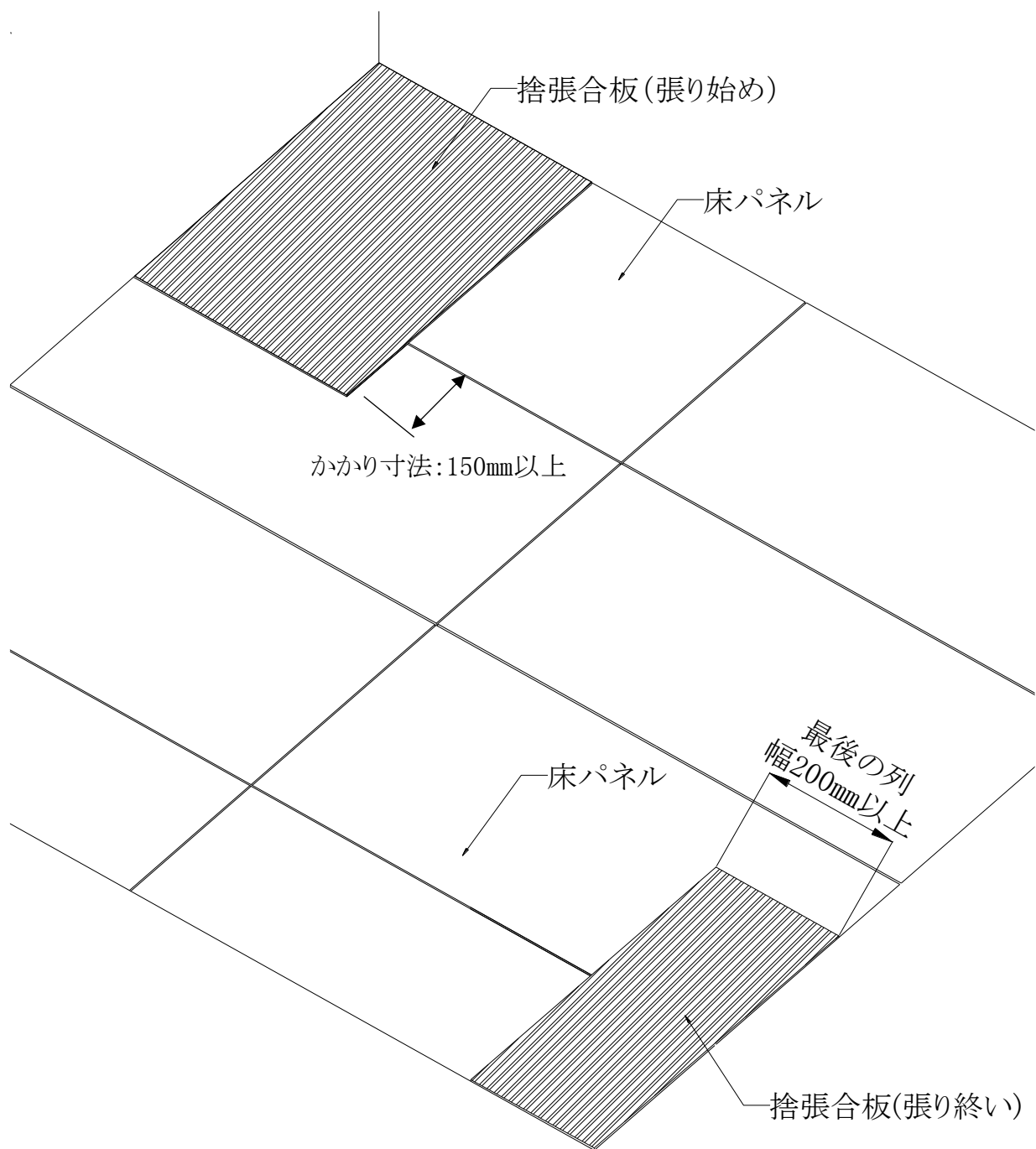
※ 無垢フローリング使用時に、床パネルがパーティクルボードの場合は捨張合板12mmを施工してください。合板の場合は捨張合板は不要です。

※注意

- ・記載する種類以外の仕上げ材の場合の捨張合板の仕様は別途ご相談ください。
- ・住宅用途以外に使用する場合には、別途ご相談ください。
- ・仕上げ材メーカーの施工要領に捨張合板仕様の記載がある場合には、仕上げ材メーカーの仕様に従ってください。
- ・床暖房パネルを使用時に、床パネルがパーティクルボードの場合には捨張合板12mmを施工してください。合板の場合には捨張合板は不要です。
- ・仕上げ材、床パネル施工時に、コンクリートスラブ面は乾燥した状態としてください。コンクリートスラブ面に湿気や水分が多いと仕上げ材・床パネルに反り・収縮が発生する可能性があります。

6-4-2. 施工要領

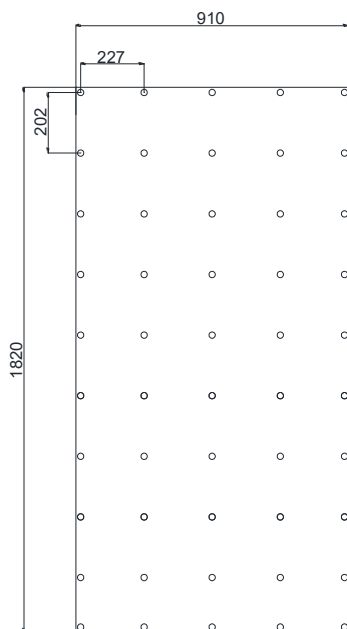
- 捨張合板の張り方向は、床パネルと直交するように施工してください。(下図参照)
- 捨張合板の目地と床パネルの目地が重ならないように施工してください。このとき、床パネルに対する捨張合板のかかり寸法は150mm以上としてください。(下図参照)
- 最後の列に施工する捨張合板は、幅を200mm以上としてください。(下図参照)



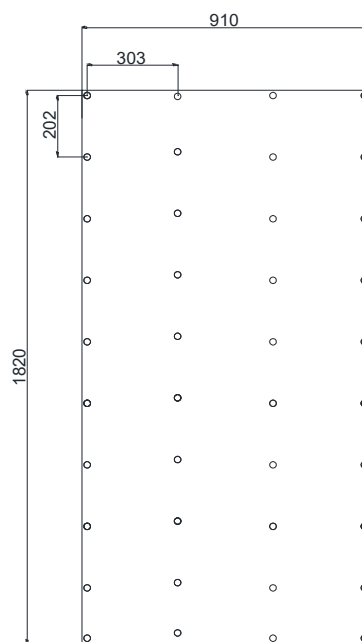
- ・捨張合板は、下図のように固定する。

〔厚み12mm合板の場合〕

留め方: スクリュー釘 (32mm以上)
ピッチ: 縦9本×横5本=45本以上



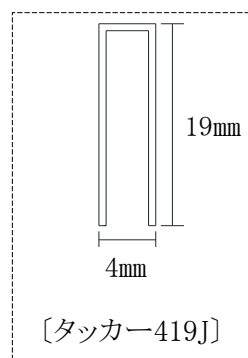
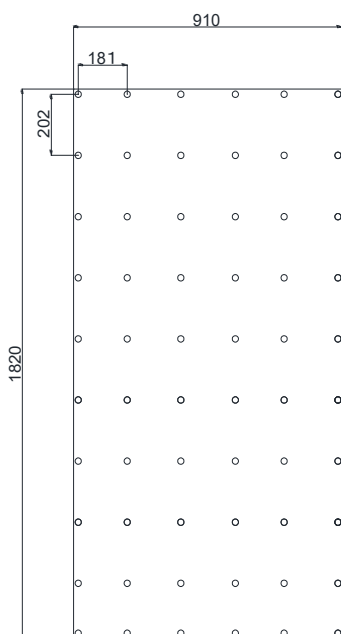
留め方: ビス (32mm以上)
ピッチ: 縦9本×横4本=36本以上



○: ビス留め位置

〔厚み5.5mm合板の場合〕

留め方: タッカー (419J相当)
ピッチ: 縦9本×横6本=54本以上



○ : ビス留め位置